

第1学年 生活科 授業構想シート

授業者 田中 伸一

本実践の主張点	前単元で学習してきた土遊びで経験したことを生かして、収穫した野菜を土を使っておいしく食べる方法を考えさせることで、土にこだわりながら試行錯誤し、よりよい食べ方を考え、自ら探究の質を高めていく姿がみられるであろう。
---------	--

1. 単元名 土を使って作ろう～かまど作り～

2. 1年A組の子ども

1学期、子どもたちにとって土は身近な存在ではなかった。栽培活動の時に土に触れることはあっても、それ以外の時間に子どもたちが土に触れ遊んでいる姿を見ることはなかった。2学期に行った前単元である「土遊びを楽しもう」とおして、土は子どもたちにとって身近な存在となった。子どもたちは、土遊びを楽しむ活動の中で、場所により、土の粒の大きさや混ざっているもの、色や手触りなど様々な違いがあることに気づいた。遊びたい土の遊びによって、選ぶ土を変えるとさらに楽しめることにも気付くことができた。休み時間に土遊びを楽しむ姿も見られた。そして毎日の野菜のお世話の時にも土を見たり、触れたりして水やりが必要かどうか判断するようになってきた。

3. 何ができるようになるか

探究力	・身近な生活に関わる見方・考え方を働かせながら、目の前の未知の問題に対して、探究のプロセスをとおして、解決に取り組む資質・能力
省察性	・身近な生活に関わる見方・考え方を働かせながら、自らの学びにおいて学びの方法や道筋を調整・改善したり、学びを意味づけたり、学んだことを自己の生活や行動につなげたりする自己効力感に支えられた資質・能力

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

土は、握る、混ぜるなど手を加えることにより手触りや色などさまざまな変化があり、かまど作りをとおして、それぞれの場所の土には違いがあることに気付くことができる。

収穫した野菜を美味しく食べるためのかまど作りになるように、どんな土をどうするのか考えて、試しながら作っていくことができる。

友達と楽しみながら、土に親しみ、土を使って作る良さを感じながらかまど作りをすることができる。

② 教材の価値

土はとても身近な自然であり、私たちの生活に古くからかわりがある。子どもたちの遊びを豊かにすることはもちろん、野菜を育てることもできる。水と混ぜ、練ると形作ることができ、焼くと硬くなる。土の状態によって、土は様子を変え、使い方も変わってくる。土は昔から私たちの生活を豊かにしてきた。竈によって熱で温め調理し、練って形作れば料理を入れる器となり、壁となり外敵・寒さから身を守ってきた。土を使ったモノは単純な仕組みで原始的な形ではあるが、私たちの生活に昔からなくてはならないものだった。しかし、今子どもたちの生活の場に土が登場しても、子どもたちが土を意識することは少ない。本単元では、前単元で遊びを通し親しみを持つようになった土を使い、私たちの今の生活にも生かすことができる体験をとおして、更に土を身近に感じ、土に親しむ態度を育てたい。

5. どのように学ぶのか

①単元における授業づくりの「しかけ」

探究力を育む 主 : 主体 協 : 協働 活 : 活用	省察性を育む 気 : 気付く 決 : 決める 動 : 動く
主 子どもが何度でも遊べる機会と環境を作り、試行錯誤できるようにする。 協 収穫した野菜を美味しく食べるためのかまどになるように、土で作ってみてうまくいったことや困ったことを友達と考え合って、自分が作りたいかまど作りができるようになる。 活 収穫した野菜を美味しく食べるためのかまど作りになるように自分なりに改良したり、やってみて、困ったことを自分なりに考えたり体験から考えたりして改良することができるようにする。	気 決 動 自分の取り組みに対して「どうだったか」継続的に振り返らせることで、自分の思いに合った土を工夫して作ったかまどになるようにする。 ・土を使ってかまど作りを楽しむことで、うまくいったことや困ったことを友達と考え合って、遊びをより楽しくすることができるようにする。

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

<p>前単元 土を使って遊ぼう</p> <p>単元計画 (全 10 時間)</p> <p>第 1 次 土ってどんな感じ? (3 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 土ってどこにある? どんな遊びをしよう? 色々な場所にある土を感じてみよう 色々な場所の土を並べて、触って、嗅いで 土がある場所に行こう <p>第 2 次 土遊び名人になろう (4 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 土を使った遊びを楽しもう (団子, 山, 水流し, 宝隠し, 形づくり, 泥水づくりなど) 遊んで、感じて、交流しよう 土遊びを工夫しよう, 交流しよう 土遊びを工夫しよう <p>第 3 次 1A おすすめ土遊び大会をしよう (3 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊び方紹介カードを作り, 紹介する 色々な遊び方で楽しむ 	<p>単元計画 (全 14 時間) 本時 3/14</p> <p>第 1 次 もっと楽しく遊ぶには? (1 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作ったかまどを使って調理したいな <p>第 2 次 土を使って調理しよう ～秋の野菜をいただく～ (11 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 収穫野菜をどうやって食べようかな? どんなかまどを作ろう? 【本時】 かまど作りに適している土を見つけに行こう, 試してみよう かまど作り名人登場! かまどを作ってみよう かまど作りについて交流しよう (1 回目) かまど作りを工夫しよう, 交流しよう (2, 3 回目) かまど作り名人に尋ねよう かまど作りを工夫しよう (4 回目) <p>第 3 次 作ったかまどで秋野菜パーティーをしよう (2 時間)</p>
--	---

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 土は、握る、混ぜるなど手を加えると、手触りや色などさまざまな変化があることに気付くことができる。 それぞれの場所によって、土には違いがあることに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫した野菜を美味しく食べるためのかまど作りになるように、自分なりにどんな土をどうするのか、試しながら工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と土を使ったかまど作りをとおして、土に親しみ、土を使って作る良さを感じながらかまど作りをしようとしている。

生活科学習指導本時案

授業者 田中 伸一

日時：令和2年10月23日（金）第3校時（10：50～11：35）

対象：第1学年A組 30人

本実践の主張点	収穫した野菜を美味しく食べるためのかまど作りのイメージを共有し、こんなかまどにしたいという思いを実現していけるようにすることで、必要になりそうな工夫やそのための土に目を向け、これからの学習において主体的に取り組もうとする姿がみられるようになるだろう。
---------	---

1. 本時の構想と学習課題について

子どもたちは前単元をとおして、土に触れ、土遊びを楽しんできた。楽しんだ遊びは、泥団子作り、川作り、山作り、ジュース作り、かまど作りである。みんなでかまど作りを体験したとき、「自分たちで作ったかまどを使って、育てた野菜とか採って料理したいな。」と話した。子どもたちは1学期から栽培活動にも取り組んでいる。夏野菜やサツマイモを育て、サツマイモの収穫の時期が近づいている。子どもたちはサツマイモの収穫を楽しみにしており、どうやって食べようか本を借りて調べるなど、今までの体験から考えわくわくしている。そこで、今回の単元では、前単元で遊んだ土を活用し、収穫したサツマイモを美味しく食べる活動を計画した。

本時では、収穫した野菜を美味しく食べたいという子どもたちの気持ちを実現するための、かまど作りを考える。子どもたちはサツマイモの植え付け時、「焼き芋にして食べたい。」「ふかし芋にして食べたい。」などと話していた。収穫したサツマイモを美味しく食べたいという思いを実現するために、前単元で学習した土遊びで作ったかまど作りの経験を生かして、遊びの対象であった土に再度目を向け、作り上げていく。それぞれのかまどのイメージを共有する中で、かまどとして使うために必要になる土や工夫に気づいていく。「料理するから崩れないようにしっかりしたかまどを作りたい。」や「屋根は軽い土で作らないと崩れてしまう。」など友達の工夫についての考えを聞き、自分のかまど作りに取り入れたらもっと美味しい料理を作れるかまどになるというイメージを具体的に考えていける授業にしたい。

2. 本時における探究の質を高める場面と授業づくりの「しかけ」について

本時における探究の質を高める場面は、収穫したサツマイモを美味しく食べるためのかまどを考える場面である。自分が食べたいと思うサツマイモの食べ方である「焼き芋」「ふかし芋」「茹で芋」などにするためのかまどを自分なりに考え、調理する目的を意識し、どんな形で、どんな工夫がいいのかイメージしたことを交流する。それぞれのかまどに合わせて、「焼き芋にしたいから、サツマイモを乗せて壊れないようにしっかりしたかまどを作りたい。」「焼き芋するのに、屋根を作りたいな。」と自分の思いを話す。そこで、しっかりしたかまどにするために、どんな土がいいのか、どうしてそう思ったのか考えさせる場面を作る。「前、泥団子作ったとき硬くなったから、築山の土を使いたい。」「新野菜畑の土は軽かったから屋根にできそう」など、自分なりのイメージで考えたかまどを、みんなの体験をもとに考えを出し合いより具体的な形でイメージできる学びとする。

自分の思い描くかまどについて伝えるために形や工夫を言葉で表現することに加え、粘土で作ってイメージを共有できるようにする。粘土で作ったかまどを見て、言葉を聞いて「いいな。」と思う工夫に気づき、今後のかまど作りに向けて意欲を持って取り組んでいく姿を期待している。

3. 本時における評価活動について

子どもたちの授業中の発言や土に向かって取り組む様子、タブレット PC の動画や写真等の記録を見せながら、授業の終わりに振り返りを書く時間を設定することで、子どもが自分の考えの変化や活動の高まりを自覚できるようにする評価活動を行う。

4. 本時の目標

収穫したサツマイモを美味しく食べるためのかまどのイメージについて交流し、かまどを作る中で必要になりそうな工夫やそのための土に気付くことができる。(思考力・判断力・表現力)

5. 本時において働かせたい見方・考え方

<input checked="" type="checkbox"/> くらべる	<input checked="" type="checkbox"/> つなげる	<input type="checkbox"/> まとめる	<input type="checkbox"/> わかる	<input type="checkbox"/> 予想する	<input type="checkbox"/> 見方を変える
--	--	-------------------------------	------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

6. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
1. 収穫したサツマイモの食べ方を共有する。 2. 学習課題の確認	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 美味しく食べるために！どんなかまどを作ろう？ </div>	
3. イメージするかまどを粘土で作って、交流する。 <焼き芋> ・火を使うから、燃やす枝を入れる入り口がいる。 ・上に網を乗せたい。 ・サツマイモを乗せても壊れないようにしたい。 ・屋根を作りたい。 <ふかし芋> ・上に鍋をのせる場所を作る。 ・<茹で芋> ・水がたくさん入るように大きくしたい。 4. かまど作りに必要になりそうな工夫をもとにどんな土があっているか考える。 ・重さで壊れない丈夫な壁を作りたいから、硬くなる土がいいな。 ・屋根は軽い土で作るから、サラサラの土がいいかも。 ・大きく作るためには、土がたくさん必要だから畑の土がいいかな。 ・火を入れるところは崩れないように、強い土がいいな。 5. 振り返り	・収穫したサツマイモの食べ方を選び、その調理ができるかまどのイメージを粘土で作ることで、自分の思いを具体的に表現できるようにする。 ・考えた粘土のかまどをもとに、共通点を見つけ、いいなと思う工夫を考えることで、かまどのイメージを膨らませることができるようにする。 ・工夫をもとに、どんな土がいいのか、どうしてなのか訳を考えさせることで、みんなの体験からより具体的な形でイメージできるようにする。 ・粘土で作ったかまどを使い、形や工夫を言葉で表現することで、イメージを共有できるようにする。 思 収穫したサツマイモを美味しく食べるためのかまどの工夫をもとに、土に目を向けて考えることができる。 ・取り入れたい工夫や大切だと思ったことについて書くことで、自分の考えの変化や活動の高まりを自覚できるようにする。

研究授業

第1学年, 生活科, 指導者: 田中 伸一

単元名: 「土を使って作ろう～かまど作り～」

【各教科・領域において習得した**知識(内容知・方法知・体験知)**の活用・発揮が促され, **互いの探究のプロセスが充実**していくイメージ】

①国語科「おおきく なった」
・国語科で得た観察の視点には色・形・大きさ・触感・におい・音などがあるという知識が本実践における, 友達の制作物や, 自身の制作物の前と比べて, 土の様子や状態の変化や違いを見つける**情報収集のプロセスを充実させる。**

④生活科「土を使って遊ぼう」
・〇〇遊び名人になるために, 自分が楽しみたい〇〇遊びをするには, どの土が適しているのかを校内の色々な場所の土を使って試す。この活動をとおして得た知識が, 本実践におけるかまど作りを行うときの土選びに必要な**情報収集のプロセスを充実させる。**
・みんなでかまど作り遊びをする中で, このかまど作り遊びをもっと楽しくしたいという思いが, 栽培活動とも関わり, 本実践における**課題設定のプロセスを充実させる。**

